



そぞうしゃかねはんぞう 塑造釈迦涅槃像 ～吉津の寝釈迦と花まつり～

今から約2,500年前にインドで生まれ、仏教を開いたお釈迦様は、多くの弟子や諸国王などに見守られながら、^{さらそうじゆ}沙羅双樹の元でその生涯を終えました。右手を手枕にして横臥するその姿は涅槃像(寝釈迦)といわれ、タイや中国、そして日本でも多く造られ、信仰の対象となっています。

三野町吉津にある吉祥寺の^{しゃかねはんぞう}釈迦涅槃像は、江戸末期の安政年間(1854～60)に、当時の住職^{みつどうほういん}密道法印が村の家々から古いお札を集め、燃やしてその灰と土を混ぜて造られたものです。釈迦堂

に収められた、全長3メートル強の^{ねはんぞう}涅槃像の周囲には釈迦の弟子たちや鳥獣が配置され、嘆き悲しむ様子が表されています。その表情はリアルで、どこかユーモラスな雰囲気漂わせています。

さて、吉祥寺にはもう一つ有名なものがあります。毎年4月29日に開催される「よしづ花まつり」です。花まつりは、お釈迦様の誕生の様子にちなんで誕生仏に甘茶を注ぎ、花を供えるもので、春の風物詩として多くの参拝客で賑っています。

<生涯学習課>

今月の市民力

みとよ音声訳の会「ぼかぼか」は、現在会員9人で活動しています。毎月集まっては、主に「広報みとよ」と「しちふく」の音声訳を行っています。広報の記事の中から、お知らせしたいものを選び、要約してテープに吹き込みます。そのテープを社会福祉協議会が、必要な人に貸し出しています。

平成15年の会発足時には、音声訳の基礎もわからない状態で、研修に行ったり自分たちで勉強しながら活動を続けてきたそうです。「年を取ると活字が読みづらくなります。お年寄りの集まる会などでも、ぜひ活用してほしい」と語る代表の樋笠さん。より多くの人に情報を届けたいという思いで、これからも活動を続けていきます。

